

# 「進んでする人 上達の人。言われてする人 中凡の人。叱られてする人 下落の人」 荷主の 要求に応える資質の高い従業員たれ。

幸和運輸株式会社 (南薩支部)

知覧の地で戦中戦後を生き抜く強いリーダーシップのもと、  
南薩の豊かな産物を全国へ届けて40余年。



代表取締役 田中 哲雄さん

## 幸和運輸株式会社

本社/川辺郡知覧町西元14628番地  
代表取締役社長/田中哲雄  
従業員数/65名  
保有車両/58台



かつて特攻隊の出撃基地を擁した知覧の地だが、現在は明るい陽光のもと、サツマイモや茶などを産するのどかな田園風景が広がっている。幸和運輸本社は、知覧特攻平和会館からほど近い、なだらかな丘陵地帯に位置している。昭和30年に創業した穎娃合同貨物自動車を昭和42年に田中哲雄社長が継ぎ、幾度かの商号変更を経て現在に至っている。以来40年余り、鶏の配合飼料のほか酒造メーカーの製品・資材など南薩ならではの物流を中心に事業を展開。また専門的知識と技術を要する植木・街路樹など樹木の輸送にも早くから携わり、県内でも高いシェアを誇っている。

田中社長が社員に求めるのは、社名にも謳われている一文字「和」の精神。「人は、正直で素直な心と社会性があるからこそ成長します。ドライバーさんはいつでも荷主様の要求に素直に応えられることが大切だから、力を高める事が大切です」と田中社長。社内には「話せば解る 理解。出せば出る 知恵。やればできる 実行」という「三行」とともに「進んでする人 上達の人。言われてする人中凡の人。叱られてする人 下落の人」という箴言が掲げられている。「下落の人、落第生は、うちには要りません」と語る田中社長は、現在保有している60台から車を増やす予定はない。景気の変動に左右されない基盤を保持する為であるが、社員の質を落とさ

ないためにも、目の届く範囲での経営を堅持するという。

「企業は人」という理念の社長は、従業員に自己研鑽と創意工夫をきびしく求める一方、各人に厚い信頼と思いやりを寄せている。

「コンピュータを車に積んで各車両を管理する話も出ましたが、止めました。ドライバーさんは、夏は暑く、冬は寒い中、きびしい環境の中で長距離を走るわけですよね。その彼らの気持ちを考えると、事務所の中からすべて管理するというのはどうか、と。親心と言いますか…コンピュータで監視するというのはやめました」と田中社長。きびしくも温情のある会社は、勤続年数は20～30年のベテラン従業員が多数を占める。「給料は高くか

かるけど、根性があるって、理解力のある人が多いから、仕事は楽ですね」と田中社長は笑う。

昭和12年知覧に生まれ育った田中社長は、身近に戦争を体験した一人。小学生の頃には、女学生らと共にハンカチを振り、出撃する特攻隊員を見送っていたという。戦争を体験しない者には理解も及ばない、様々な思いを乗り越えて生き抜いて来られたに相違ない。「これからの日本はどうなりますでしょうか?」。田中社長の問いかけは、知覧から飛び立った若者達の声を代弁しているようにも響いた。



1,100平方メートルの広さを持つ物流センター



県内でも高いシェアを誇る植木の輸送



事務所に掲げられている2つの社訓



本社事務所